

協会ニュース 傑作集～ガイドの役に立つ話、あっと驚く話、心温まる話～（前半）				
2	2005年(平成17年)	11月(102号)	大仲義一	曾呂利新左衛門
3	2007年(平成19年)	11月(126号)	呉竹正	和泉式部の宮
4	2009年(平成22年)	1月号(152号)	松井彰夫	土居川公園の地下へ行って来ました
5	2009年(平成22年)	1月号(152号)	村田信彦	堺港焼きについて
5	2010年(平成23年)	12月号(175号)	生島英造	沢庵和尚と堺
6	2012年(平成25年)	7月号(182号)	村田信彦	大魚夜市と鯨祭り
6	2012年(平成25年)	6月号(184号)	広報部	堺市の「アメダス」は、大仙公園の中
7	2013年(平成25年)	5月号(192号)	谷崎 悦子	高野街道を少しはずれて、是枝クリニックへ
7	2012年(平成25年)	8月号(195号)	長江幸代	「西高野街道」ポピアン体験記
8	2017年(平成29年)	1月号(236号)	細谷利晶	寺山南山古墳現地説明会に参加しました
9	2018年(平成30年)	3月号(250号)	長江幸代	あなたは、北向道陳をご存じでしょうか？
10	2021年(令和3年)	4月号(287号)	杉本信子	堺唯一の総理大臣 鈴木貫太郎と久世

曾呂利新左衛門

[大仲義一]

歴史を正面から学び知ることは大切だが、その片隅に残っている落穂ひろいも又楽しいものです。先日の堺まつりに参加した帰り、生まれ育った大寺さん界隈を歩いて、フト懐かしい曾呂利新左衛門の新調の石碑を見つけた。(市之町東3丁 本名：坂内宗拾)古い石碑も同じところにあった。100mも離れぬところに生まれた私には、親しみ深いものでした。小学生になって“立川文庫的なソロリの頓智”を読んだのも近くにこんな人が・・・という身びいきだったのだろう。

豊臣秀吉が四国征伐を企てての堺のコメを買い占めた。これに対し、「関白が四石(四国)の米を買いかねて今日も五斗買い(ご渡海)」という落首は有名。怒った秀吉、新左の首をはねんとした時、「最後のお願ひ、この世の思い出に御伽噺を!」と願ひ、うまく秀吉の怒りを解いた話。米価高騰の堺の苦しみを救った新左は一躍有名になる。当時新左は芽口筋(目口筋=甲斐町と市之町=大小路より一つ南の筋)で卑賤の鞆師として生計を立てていた。その鞆作りの神技は素晴らしく、刀身をソロリソロリと吸い込み、ピタリと納まるところから曾呂利と異称されたのであろう。以後秀吉に可愛がられて、お伽衆(お咄衆)となる。

今ひとつ私の記憶に残っているのは、ある時秀吉にほめられ「賞を与えよう、何なりと望め」と言われ、「お米を少々頂きたい」と申し出る。「よし、米の100表なりとも持って行け!」と秀吉。「いえいえ!今日は1合、明日は2合、明後日は4合その次は8合と・・・1ヶ月も頂ければ結構です」と新左。この額智話を読んだ時、算数も少し出来るようになっていた私は計算してみて驚くとともに、思わず一人で拍手した。31日目に何と107万石を超えることとなる。(お暇があればどうぞ)幼心に利休さんも晶子さんも偉いが、こいつもすごいや、やっぱり堺だ!などと胸を張った思い出がある。



有名な連歌師、紹巴が「須弥山に腰うちかけて天と地をぐっと呑めども喉にさわらずと詠んだとき、新左すかさず「須弥山に腰かけ天地を呑む人を鼻毛のさきで吹き飛ばしけり」と、即答して、さきの米の倍々増しを秀吉から貰ったとか?少し眉唾の説ながら面白いと思う。

いずれにしても開口神社などご案内する機会があれば一寸立ち寄ってみて下さい。皆様の周りにも忘れかけている碑やお話があるのでは?是非ご投稿下さいます様お願いします。

和泉式部の宮

[呉竹正]



為尊親王の死後、弟の敦道親王から和泉式部へ便りが届き、新たな恋が始まった。身分の違い、加えてかつての恋人の弟との恋……二人の恋愛は、当時の一大スキャンダルに発展し、情熱の歌人和泉式部の10ヶ月におよぶ恋の物語が誕生する。角川文庫の川村裕子著「和泉式部日記」に対する新刊案内の一部です。

与謝野晶子同様、堺という土地は、女性を情熱的にさせる場所なのでしょうか。以前より聞いていた情熱の歌人、和泉式部の住んでいた場所を探しに西区平岡町を捜し歩きました。住宅街の真ん中と言うことでなかなか見つかりません。住宅街なら住民に聞けばよい、ということですが、8月最終の日曜日、しかも昼下がりに人っ子一人外を歩いていません。やっと祭りの山車を準備している若者集団を見つけ、教えてもらいました。住宅地の一角にひっそりとお堂が建ち、情熱の詩人と言うよりも枯れた尼さんが住んでいたのではないかとと思われる環境でした。

説明板では、住居跡、またはお墓の跡と書いてありました。どちらか結論は出ていないようでした。今は、周りに大きな建物が並び、ひっそりとしていますが、和泉式部の時代には、眼前に茅渟海が広がり、浜寺の松林や住江の海岸、海の向こうの尼崎や西宮、神戸から須磨、明石と絶景の場所だったのではないかと思います。

場所そのものはあまり期待したほどではありませんが、実際に現場に立ち、時代をさかのぼらせて空想にふけると、実に愉快的気分になってきました。



土居川公園の地下へ行って来ました

【松井 彰夫】



配置に就く時などよく通る土居川公園、櫓のようにも見える換気塔の地下部分には地域浸水防止用の大きな貯水池があると以前より話には聞いていた。公園を通る度に見てみたいと思う気持ちが、今かなえられた。堺市の調整池と下水ポンプ場見学を今回与えていただいた。

堺市産業振興局観光部坂本部長のお計らいで、11月27日午後、堺市上下水道局職員の方々の案内で南向陽調整池(土居川公園地下)、窪田池調整池そして浜寺下水ポンプ場を見てきました。

堺市では昭和57年の豪雨で約120haの広範囲に渡る浸水、このうち土居川中央幹線沿い(土居川が阪神高速道路設置のため暗渠になった部分)は急速な都市化に伴う浸水常襲区域で、この日も約20haの地域で床上、床下浸水が発生した。これを契機として、浸水防止に速効性の高い雨水調整池の建設に着手し、平成元年3月に南向陽調整池は完成。集中降雨で土居川暗渠の水位が上昇すれば、6箇所の流入渠から調整池へ自然流入し、浸水を防ぐ構造で、流入した雨水は南島下水ポンプ場の監視室で、暗渠の水位低下とこの地域での浸水の心配がないことを確認してポンプで排水(遠方監視制御システムで)するとのこと。今回のために設置された数個の裸電球と懐中電灯の明かりを頼りに階段を降りて行く。真暗な巨大な換気塔(5箇所)間が広がる。高さ8.8m~9.8m、幅11.4mで最大貯留能力15,000 m³。



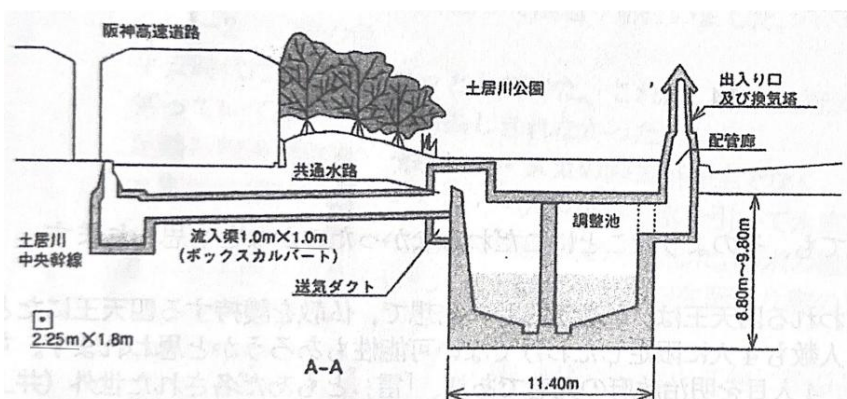
最近、阪神高速道路出入り口及び換気塔・土居川公園は雨が降らなかったので水は溜まっていない。ドブの臭いがするのではとの先入観があったがほとんどせず、むしろ変な清潔感さえした。「ここが満タンになった(配管廊 共通水路 調整池 流入渠 1.0m×1.0m 土居川 中央幹線 送気ダクト 8.80m~

9.80m 2.25m×1.8m A-A)のは平成20年9月の93.5mm/時間のとき。機能として一般的に50mm/時間までの降雨に十分対応出来るように設計されているが、道路の舗装化などが進み都市の保水能力が弱まり、このような設備の拡充が言われている。

各家庭でも雨水を一旦貯めて植木の散水にでも使ってもらえれば

上下水道にとっても非常にありがたい」と職員からのお願いも。窪田池調整池は最近の完成で新しく、最大容量16,500 m³。中百舌鳥・長曽根区画整備計画の一環として狭間川流域の洪水対策として設置。

浜寺下水ポンプ場は石津川南側の土地の低い地区315haに降る雨水を6台のポンプで大阪湾に強制排水。その内の3台は25mプール1杯分の水を1分間で排水する能力があるとか。とにかくデカイ。



堺湊焼きについて

[村田 信彦]

堺で焼き物というと「湊焼き」ということになる。つまり西湊・東湊で焼かれたものの総称である。

九州の有田を中心とした窯で焼かれたものは有田焼、又は積出港の名前で伊万里焼といい、唐津の多くの窯で焼かれたものを唐津焼と総称するが、所詮多くの窯で焼かれた焼き物の総称である。又、九州の場合は、その焼き物は窯の名称は色々有るが、歴史的にも製品は皆同じものである。しかし、堺湊焼きという総称はかなり意味が違う。湊焼きがいつ頃から始まったのかよくわからないが、鎌倉時代には既に、須恵器の発展型としての土器(蛸壺や日用雑器)が焼かれていたし、室町時代には、瓦焼きの窯が多数あった。そして、室町時代の中頃からは、茶の湯の発展があり、その茶の湯は堺が中心で、茶人達は当初、唐物を求めていたが、珠光、紹鴎、利休の時代に草庵茶湯(ワビ茶)が完成し、それに伴って茶人達の求める茶道具もワビ茶に合ったものになってゆく。長次郎という職人は利休の指導のもと、京都で楽焼を創始するが、その長次郎の縁者達が次々と堺の茶人達に招かれて、堺にやってきて、湊の辺りで、続々と楽焼の窯を開いていった。京都の楽焼は売り物であったが、堺(湊)の楽焼はほとんどが売り物ではなく、キラ星の如く居た茶人達の求めに応じて焼かれたものであった。茶人達は 自らの茶会の「おみやげ」として、この楽焼を配っていた。以後は、室町後期-安土桃山-江戸-明治と湊焼きは楽焼が中心となって継続してゆく。これはひとえに、裕福な堺の茶人(文化人)が支えてきたものである。この間、初期の楽焼以後、谷焼、長浜屋焼、津塩焼等の有名窯が創始されている。(近年では白蔵主焼、大浜焼、南宗寺焼、水族館焼、などの楽焼のほか、三宝焼等の陶器焼も創始されている。)



余談：堺には、太平洋戦争で堺の中心部が全滅状態になるまで、多くの楽焼の名品が残っていたが、現在では、ほとんど残っていない。そんな中で、祥雲寺に赤と黒の銘品が残っているが、これは俗に「アメリカン楽焼」といわれている。祥雲寺も太平洋戦争で全焼し、伝世品も焼けたのだが、形良く焼け残ったので、改めて再度、焼きなおしたものである

2010年12月号(175号)

祥雲寺「沢庵和尚と堺」

[生島 英造]

協会の相談役である吉良隆司氏の講演会が表記のテーマで開催されました。講演の要旨としては、まず「たくあん漬」と沢庵の関係で、たくあんは元々ダイコンの漬物→「貯え漬け(たくわえづけ)」の訛ったもので直接沢庵和尚とは関係ないとの切り口で始まり、1573年生れの和尚の波乱万丈の73年にわたる一生を節目節目にエピソードを織り込みながら解り易く話された。武家出身で幼くして仏門に入り、31歳で師の一凍紹滴より道号(沢庵)とともに印可(今回の特別公開で展示の紹滴墨跡掛軸)を受け、1612年から南宗寺の住職、1614年大徳寺住職、1615年以降、消失した南宗寺の復興、海会寺の移転、その跡地に祥雲寺の開山(谷正庵の協力)、1627年紫衣事件で流罪を受けるが許された後は、柳生宗矩、徳川家光等の帰依を受け、1638年東海寺開山。終生権門への忌避と自己の探求に打ち込み、孤高を全うした禅僧として宮本武蔵の五輪書等に大きな影響を与えている。



堺には、行基、沢庵という偉大な功績を残された先人が居るが、今まで取り上げられていないのが残念であり、これを機にもっとPRしていきたいと締めくくられました。

大魚夜市と鯨祭り

[村田 信彦]



安政年間に大阪湾に鯨が迷い込んできた。見物に出た船が沈んだこともあったそうだ。町を挙げての大騒動といった様子だったらしい。泉大津にくじら公園というのがあって、その時のクジラがここに供養されているそうだ。

7 月 31 日の大魚夜市の日には、堺の浜から手製の大きな鯨を作って住吉神社まで練り歩いた。昨年は、湊西自治連合協議会を中心に 12m 余の大鯨が復活し、出島布団太鼓保存会が担ぎ上げて見事に復活した。

7 月 31 日住吉神社の神輿が堺に渡御する日の夜半から明け方にかけて大浜で開かれていたのが、大魚夜市である。商港としてよりも漁港としてスタートしたのが堺の港であり、漁業の神、住吉神社を氏神とする漁師と近在の住民との間に開かれた市であった。700 年近い歴史を刻んでいると云える。室町時代に足利尊氏が魚の売買を禁止した時、奈良に魚が来なくなり、春日神社が「神前に供える鮮魚に事欠く」と抗議している。春日神社には堺の魚屋(ととや)弥次郎が献上した天文 7 年(1538 年)銘のある石灯籠が今も残っている。

この大魚夜市が最も盛んだったのは元禄時代で、漁師 1,245 人、漁船 591 艘あったと記されている。海岸一帯は漁師たちの町で海老屋町、蛤町、蛸浦、魚ン店、かまぼこ町、かいがら町等の町名があった。また、魚荷橋という橋があって、奈良へ魚の行く関門だった。この大魚夜市は、天保以前は今夜町浜(寺地町の内川あたり)で行われていて、後に大浜に移ったらしい。

歴史的行事であったが、臨海工業地帯が出来て、大浜はなくなり(地名だけで美しい浜はない)、魚も集まらなくなって、昭和 49 年から無くなり、現在では堺まつりの一環の行事として行われたのを経て、大浜公園での夏の風物詩として復活している。

2012 年 6 月号(184 号)

堺市の「アメダス」は、大仙公園の中

猛暑もやっと峠を越えた感じですが、7 月 31 日には、全国 2 番目の高温 37.9 度を記録しました。堺のどこで観測して、こんな数字がでたのか…気になるところです。

「ホットニュース」(第 3 号)でも既に紹介されていますが、堺市の「大阪管区気象台」の「堺地域気象観測(アメダス)」のある場所は、大仙公園の中の自転車広場から北に道路を渡ったところです(風車が目印)。ガイド中に、もし、お客様からご質問があれば、これでばっちりです。



高野街道を少しはずれて、是枝クリニックへ

〔谷崎 悦子〕

昭和20年代、百舌鳥梅北町に湘賀池という溜池があった。池に突き出した先には、「是枝邸」（登録有形文化財）が建っている。西洋の絵ハガキにある、おとぎの城を見るような景色が、南海高野線の車窓からも昔は眺められたそう。池に突き出した半島状の場所に杭を硬い層まで打ち込んで屋敷を造り、宮大工さんが技術を発揮した美しい建物が、島を二つ三つ浮かべた大きな池にあった情景。昔の写真のコピーに彩色してウォーカーさん達にお見せし想像して頂いた。



昭和6年から3年間の歳月をかけて造られた。大理石の石造りのように見えるが、木造建築の4階建てであり、宮大工の村田元蔵さんが命の恩人の医者のはしは近有さん感謝の気持ちで、未経験の建築のやり方で建てたという。

是枝邸の外観は、四方面の様式で、少しずつずらしてあるので、4面が連続して回転しているようでありリズム感がある。柱や壁が大理石に見えるが、「寒水洗い出し」（寒水石を砕いて貼り付けてある）で、これも非常に珍しい工法で左官されている。現在も、定期的に防腐処理、クレオソートが注入されている。建物は木材費が5千円、総工事費は12万5千円。法隆寺の宮大工、西岡棟梁が見学に来られて、その工法に唸り「今後、千年は大丈夫だ。」と検証されたとか。

2班で、午前中の堺市総合福祉会館での講演会で講師をお願いした桧本多加三先生が来られた。子供の頃、是枝先生に診て頂いたこともある桧本先生。“おでこ”に注射、「はい、5千円」。私たちは、幼い頃の桧本先生の“おでこ”と、注射針を想像しながら大笑いした。それから後に来られた班には、先生のネタ、使わせて頂きました。

2012年8月号(195号)

「西高野街道」ポピアン体験記（もうビリキャラとは言わせない）

〔長江 幸代〕

その日は曇天、気温28℃、朝から湿度が高く蒸し蒸しとする、全くウォーキング日和ではない気分です、なんて、言っておられません。私は今日の大役のため、2日前より早寝早起き、暴飲暴食禁止、体調を整え準備万端でやってきた。人生後半に入り、まさかゆるキャラのぬいぐるみを着るなんて。



でも、かなり嬉しい。暑い、熱い、厚い覚悟して分身に入り込み、とうとうヘンシーン！緑化センターのゆるキャラ「ポピアン」登場。介添え役のT先輩に手を引かれ、ペタンペタンと歩き出した。想像以上に狭い視界で、どこからどこまでが私の身体か解らない。う～ん頭が重い。しかし、南海の中百舌鳥駅に到着した頃には、余裕のポーズで手を振っていた。「あー、ポピアンだ」「キャー、かわいい」「写真撮らせて」ポピアンもそれに応えるように、頬に手をあてる決めのポーズ。さまになってきた。T先輩が「ポピアンちゃんとハイタッチをすると、今日一日いい事がありますよー」と言うと、いつの間にかハイタッチが決めのポーズになってきた。改札の中に入る人、改札から出てくる人に暫く愛嬌をふりまいて、金口公園へ移動する。途中、私（ポピアン）のおっかけにも遭遇しながら、ウォークの出発地点でのパフォーマンスだ。声を出せない私は「行ってらっしゃーい」と身体でアピールする。お客様もハイタッチしながら出発して行った。テンションが上がる一方で、全身の汗が流れていくのが尋常じゃない。もう限界かも・・・。

そして、ポピアンとは寂しいお別れの時がきた。でも、大発見！あなたの小さな目は不自由なようだけど、実は、相手の心が見えるふしぎな窓でしたよ。今度は冬にあなたに会いたい。

寺山南山古墳現地説明会に参加しました

【細谷 利晶】

12 月 4 日(土)履中天皇陵古墳の陪塚とされる寺山南山古墳の発掘調査報告会を見学して来ました。

この古墳は 5 世紀初めころに築造され、長辺 44.8m、短辺 36.3m の 2 段築成の方墳であることが判明しており、平成 26 年 3 月に史跡百舌鳥古墳群の 1 基として、国の史跡に指定されています。28 年 8 月からの発掘調査で、この古墳の葺石や埴輪列、濠を確認し、さらに東辺に造り出し（幅約 9.5m、長さ約 3.6m、高さ約 0.9m）があったことが明らかになりました。百舌鳥古墳群で方墳に造り出しのある例が今回初めて確認されました。造り出しは仁徳天皇陵古墳等、大型の前方後円墳で見られますが方墳で造り出しは珍しいそうです。

造り出しは 1 段目斜面に接しており、テラス（1 段目斜面と 2 段目斜面の間に設けた平坦面）より約 0.3m 下がった位置に平坦面を設け埴輪が並べられており、斜面から円筒埴輪や形象埴輪とともに須恵器や土師器の破片が出土しています。また、造り出しが接する南側のテラスには、大型前方後円墳で見られる囲形埴輪（かこいがた



はにわ・柵状の形状をした埴輪）の中に家形埴輪を配置したものがあり、北側のテラスには土師器の小型丸底壺が置かれていることがわかりました。これらの遺物から、造り出しからテラスの範囲で形象埴輪と土器を用いた祭祀（儀式）を行ったと考えられています。

北辺では「周濠」「1 段目斜面」「テラスに並べられた埴輪列」が、西辺では「テラスに並べられた埴輪列」と「2 段目斜面」が確認され、斜面に葺石を、テラスに礫を敷くことで古墳の表面を覆っている、墳丘高が 56m 程度の低い古墳であった可能性が考えられます。また、北辺の周濠（約 6m）、東辺の周濠（約 9m）、さらに、西辺のテラス約 1.7m、東辺のテラス（約 2m）とそれぞれの幅が異なっており、これらの法量の違いは、造り出しを設けるスペースを確保するためと祭祀を行うために、濠やテラスの幅を広げる必要があったことが理由と考えられているとのことです。

今回の発掘調査の成果としては、履中天皇陵古墳の陪塚で方墳の寺山南山古墳に造り出しがあり、形象埴輪や小型丸底壺がそのままの位置で出土したことで、巨大古墳の陪塚における祭祀の一端が明らかになったことです。今後、寺山南山古墳は堺市により復元・整備され、数年後には公開・立ち入り出来るそうです。百舌鳥古墳群では数少ない立ち入り出来る古墳にコーフン（興奮 です）

あなたは、北向道陳をご存知でしょうか？

北向道陳忌 一千利休の才能を見抜いた目利き

〔長江 幸代〕

堺のまちの中心、堺区中之町東にある妙法寺に於いて北向道陳法要会が行われた。1月18日（木）朝からピンと張りつめた空気と 優しい光が、道陳の菩提寺である境内をつつんでいた。北向きの茶室を設けていたという道陳さんは、この清々しさと丁度良い光を好んでお茶を点てていたのだろう、と自分なりの解釈をする。

当日のパンフレットには、「あなたは北向道陳をご存知でしょうか？」と書かれていた。もちろん知っていますよ、千利休の最初の師。利休屋敷跡で毎回お客様にお話しています。でも、それ以外にというと・・・妙法寺副住職・佐々木妙章さんも「資料がほとんど無いんです」とおっしゃっていた。そんな条件の中で華美芝居部隊が依頼を受け、紙芝居を制作することになった。今朝4時に完成したという、湯気の上がっていきそうな華美芝居、本日が時に完成したという、湯気の上がっていきそうな華美芝居、本日がそのお披露目公演です。読み手の名調子と太鼓が合いの手を入れるスタイルで、お客様もすーと聞き入っているように見える。私も同じように引き込まれていき、道陳さんが見えてきた。それでは、副住職のお話も含めて少しまとめてみますね。のお話も含めて少しまとめてみますね。

1557年三好長慶がこの場所に南宗寺を造る前の時代。天文法難で京都から移り来た日祐上人が開山。三好長慶がこの場所に南宗寺を造る前の時代、天文法難で京都から移り来た日祐上人が開山。革屋道賀の一族・石津屋宗榮の一門・北向道陳らが妙法寺を再興する。

境内には六坊あり、道陳さんはその内の一つの檀家であった。どこに住んでいたのでしょうか。おそらく妙法寺横の通りを西方向へ、山之口筋と交わる辺りに屋敷があったらという事です。親友・武野紹鷗とご近所。本業はというと漢方医。茶の道は医術に通じると言ったとか。道陳さんの娘は医家の竹田定信に嫁いだ。男子のなかった道陳さんが亡くなるとその遺産を受け継ぎ、『天王寺屋会記』に北向円璣の名で登場するのがこの人です。当日も末裔の方が和泉市から来られていました。

妙法寺には道陳遺愛の手水鉢が残されているらしいが、特定は難しい。お茶席から庭を見て、これかな？これよねー。そうこうしているとお茶菓子の「利休餅」が運ばれてきた。続いてお茶も頂き、楽しく美味しいお茶席に満足致しました。「茶々の会」メンバーよ、今日も満点！

今回でわかった事は、一番の目利きは北向道陳だったという事。利休の才能を見抜き、武野紹鷗の素質を見抜いていた道陳さん。そして、何と言っても妙法寺の二條半という通称名に因んで、二畳半のお茶室を造っていたのですから。最後に、妙章さんが「道陳さんの命日をお茶の日にしませんか」の言葉で締めくくりました。



堺唯一の総理大臣 鈴木貫太郎さんと私のまち久世（くぜ）【杉本 信子】

私は中区檜葉に住んでいます。子供たちは久世小学校で学び「くぜっ子」と呼ばれていました。隣町の伏尾には太平洋戦争終結時の総理大臣「鈴木貫太郎誕生之地」と記した古い石碑と「久世関宿藩（せきやどはん）代官所跡」の案内碑が建てられています。そこから南へ20分程歩くと多治速比売（たじはやひめ）神社に着きます。鈴木氏揮毫の「敬神崇祖」の扁額が神社参集殿に残されています。境内の末社の一つ稲荷社には氏の名を記した玉垣があります。鈴木氏の生涯や関宿藩との関係・久世の由来を調べたく存じました。堺の内陸部の開発は江戸時代元禄期以降ですが、17世紀後半には東山・伏尾・檜葉・向山（小阪）に新田が出来ます。宝永2年（1706年）当時徳川幕府の若年寄であった下総の関宿藩主久世氏の知行になります。



関宿藩は関宿城（千葉県野田市）を本拠とし譜代大名の久世氏が治めていましたが、この泉州にも約一萬石の飛び地（和泉大鳥郡・泉郡29村）を得、明治2年迄統治しました。（明治22年、関宿藩領であった小坂・八田東・和田・平井・東山新田・伏尾・檜葉新田が合併して久世村となります。村名は久世氏の名を拝借したそうです）

慶応3年（1868年1月）鈴木氏はこの地での最後の代官・鈴木為輔（ためすけ 由哲）の長男として久世家伏尾陣屋で生まれました。（この日に鳥羽伏見の戦いが勃発。お七夜には大阪城の火薬庫が大爆発、その振動で生家の障子がはずれたそうです）為輔は寛仁さで領民に慕われていました。維新後、鈴木家は関宿に移り、貫太郎は海軍軍人の道を歩みます。（貫太郎少年の幼少期のあだ名は「泣き貫」、悲しい時辛い時情けない時には全身で泣く子供でした。両親は心優しい彼を医者にしたかったのですが、海軍に入り外国へ行きたいという強い希望をしかたなく認めます）「長の陸軍・薩の海軍」の中で、賊軍出身の鈴木は「水雷戦術に鬼貫太郎あり」と認められるまでになり叙勲も受けますが、36歳の時、人事に怒り堪忍袋の緒が切れ、海軍を去る決意をします。その折、決意を覆させたのが父からの手紙でした。再び国への忠誠を誓います。その後は連合艦隊司令長官・軍令部長と昇進します。



昭和4年、62歳。天皇の希望により侍従長に就任。これを機に伏尾の中辻氏が「誕生之地」の石碑を建之（けんし）しました（前頁の写真参照）。朝、宮中に出勤する時は必ず「お母さま、行って参ります」帰れば「只今帰りました」と座って手をつき、高齢の母に挨拶される方でした。天皇からは厚い信任を受けますが、一方では「君側の奸」と思われ命を狙われます。

昭和11年2月26日、陸軍の一隊が官邸を襲撃（2・26事件）。鈴木も3発の銃弾を受け倒れますが、夫人の必死の制止でとどめを免れます。奇跡的に生き延びた氏は昭和12年、生地に鎮座します崇敬の念深い多治速比売神社に参拝。玉垣は大正12年奉納したものです（右写真参照）。九死に一生を得たのはひとえに神仏のご加護によると自伝に記しています。

昭和20年4月、天皇の強い要請を受け総理大臣に就任、77歳です。沖縄陥落・東京大阪への大空襲・広島長崎への原爆投下、連合艦隊壊滅・ソ連の満洲侵攻など内外共に悲惨を窮めた状況でしたが、徹底抗戦・「一億玉砕論」が渦巻いていました。鈴木は平和を希求する天皇の強い意志を受け「聖断」による終戦に持ち込みます。



昭和12年
多治速比売神社をご夫妻で参拝

8月14日、終戦を閣議決定。天皇自らが詔書を読みあげられ録音した玉音放送を阻止しようとする叛乱が起こり、鈴木は自宅を焼かれますが、ほうほうの体で逃げ延びました。（この時、消防団は駆けつけますが、「国を売った首相の家に水をかける義理はない」とメラメラと燃える家を眺めていたそうです）昭和20年8月15日正午、玉音放送がながされ国民は終戦・敗戦を受けとめます。その日の内に鈴木内閣は総辞職。昭和23年4月、関宿にて鈴木貫太郎氏は80歳の生涯を閉じられました。

久世の名のもと地車祭・運動会・敬老会などが催され、私も参加させて頂いております。鈴木氏のようなすばらしい方と少しでもご縁があったこと、嬉しく存じます。

参考文献

『久世関宿藩代官所跡と鈴木貫太郎』	久世校区まちづくり協議会
『聖断』 半藤一利 PHP文庫	『平井ふるさと昔話』